



仙台市水道局マスコットキャラクター

ウオッターくん

平成 24 年度事業報告

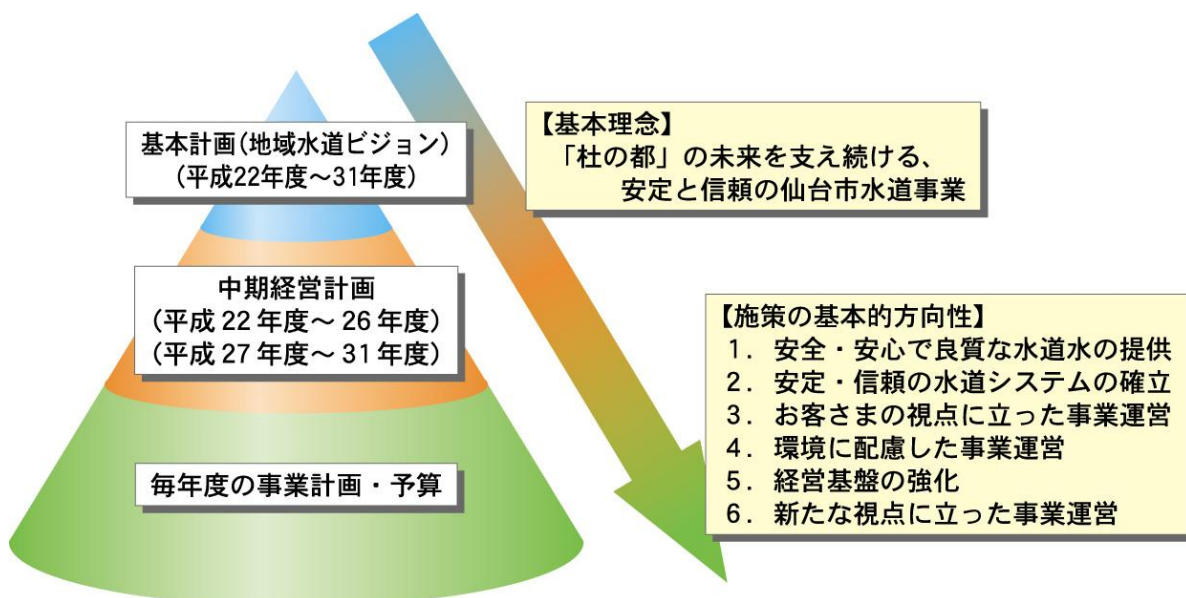
仙台市水道局

1. はじめに

- 仙台市水道局では、平成 22 年 3 月に策定した「仙台市水道事業基本計画（平成 22 年度～平成 31 年度）」（以下「基本計画」という。）及びその実施計画である「仙台市水道事業中期経営計画（平成 22 年度～平成 26 年度）」（以下「中期経営計画」という。）に基づき、優先的・重点的に取り組んでいく 6 つの「施策の基本的方向性」を踏まえ、各年度の事業に取り組んでいます。（図 1）

このたび、平成 24 年度における事業の実績がまとまりましたので、お知らせいたします。

図 1 仙台市水道事業の計画体系



2. 決算の概況

- 本年度の水道事業は、「仙台市水道事業中期経営計画」（平成 22 年度～平成 26 年度）に基づき、水道施設の整備を図りながら、お客さまへの安全・安心で良質な水の安定供給に努めてまいりました。
- 事業実績につきましては、年間総配水量が 1 億 2,178 万 4 千立方メートル、前年度比 3 万 2 千立方メートル（0.03%）減、年間有収水量が 1 億 1,348 万立方メートル、前年度比 541 万 3 千立方メートル（5.0%）増となり、有収率は前年度より 4.5 ポイント向上して 93.2%となりました。
- 経営面につきましては、東日本大震災の影響により大幅に減少していた給水収益が、震災後の人口流入に伴う使用給水栓数の増加や生活用及び業務用の有収水量の増加により、震災前に近い水準まで回復しました。
- 次に、建設改良事業につきましては、配水管整備事業で、老朽铸铁管等更新工事や配水管新設工事等を行い、33 億 2 千 8 百万円を支出し、配水管延べ 33,728 メートルを布設しました。また、施設整備事業では、無線通信設備中継線無線化工事や茂庭第一配水所電気設備更新工事を行ったほか、災害時の被害拡大防止や迅速な災害復旧が可能となるよう配水ブロックの再編成等を行い、22 億 8 千万円を支出しました。
- 財政状況につきましては、収益的収支（消費税及び地方消費税抜き）において、総収益が 265 億 2 千 1 百万円、総費用が 240 億 9 千 2 百万円で当年度純利益は 24 億 2 千 9 百万円となり、前年度繰越欠損金の 7 億 5 千万円を補てんし、当年度末の未処分利益剰余金は 16 億 7 千 9 百万円となっております。
- 以上が決算の概況でございますが、需要の動向等を見極めながら、今後とも計画的かつ効果的な事業運営とサービスの向上に努め、安全で良質な水道水を安定的に供給していくことを通じて、市民の暮らしや地域産業を支え、お客さまに一層信頼される水道事業を目指してまいります。

3. 事業実績

区 分 \ 年 度	単 位	平成24年度 (E)	平成23年度 (F)	対前年度比較	
				増減(△減) (E-F)	比率 (E/F)%
計画給水区域内人口 (A)	人	1,041,659	1,032,522	9,137	100.9
給水人口 (B)	人	1,037,351	1,028,015	9,336	100.9
年間総配水量 (C)	m ³	121,783,863	121,816,255	△ 32,392	100.0
(仙 台 市 配 水 量)	m ³	(117,740,445)	(117,692,494)	(47,951)	(100.0)
(他 市 町 分 水 量)	m ³	(4,043,418)	(4,123,761)	(△ 80,343)	(98.1)
配水能力	m ³ /日	429,115	429,815	△ 700	99.8
一日平均配水量	m ³	333,654	332,831	823	100.2
一日最大配水量	m ³	366,751	366,640	111	100.0
使用給水栓数	栓	420,586	412,683	7,903	101.9
年間有効水量	m ³	116,349,089	110,913,451	5,435,638	104.9
年間有収水量 (D)	m ³	113,480,466	108,067,120	5,413,346	105.0
配水管延長	km	3,370	3,358	12	100.4
職 員 数 (管 理 者 除 く)	人	406	416	△ 10	97.6
普及率 (B/A)	%	99.6	99.6	0.0	-
有収率 (D/C)	%	93.2	88.7	4.5	-

4. 財政状況

平成 24 年度は、東日本大震災の影響により大幅に減少していた給水収益が、震災後の人口流入に伴う使用給水栓数の増加や生活用及び業務用の有収水量の増加により、震災前に近い水準まで回復しました。

その結果、24 億 2,900 万円の純利益（黒字）となり、累積欠損金は解消し、平成 24 年度末における未処分利益剰余金は 16 億 7,900 万円となりました。なお、未処分利益剰余金については、全額を減債積立金（企業債償還の財源に充てるための積立金）に積み立てました。

(1) 収益的収支

- 水道水をつくり、ご家庭にお届けするための財源と経費です。

収入 265億2,100万円

お客さまからの水道料金 231億8,500万円	その他 33億 3,600万円
----------------------------	-----------------------

支出 240億9,200万円

人件費 32億 3,000万円	物件費など 54億 3,400万円	受水費 64億6,900万円	減価償却費 71億5,500万円	支払利息 18億 400万円
-----------------------	-------------------------	-------------------	---------------------	----------------------

県などから浄水を購入するための費用
水道施設などの資産価値の目減り分を毎年の費用として計上したもの
国などからの借入金の利息

純利益24億2,900万円

(2) 資本的収支

- 水道施設を建設・改良するために必要な財源と経費です。

収入 32億2,600万円

企業債 21億5,000万円	その他 10億 7,600万円	損益勘定留保資金 など 79億1,700万円
-------------------	-----------------------	---------------------------

施設整備などのために国などから借りるお金

減価償却費などを充当します

支出 111億4,300万円

建設改良費 57億6,300万円	企業債償還金など 53億8,000万円
---------------------	------------------------

施設の建設・改良工事のための費用

国などからの借入金の元金の返済など

(3) 前年度との比較(収益的収支)

(単位：千円)

科目	区分	平成24年度	平成23年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業収益		26,521,011	25,170,139	1,350,872	105.4
営業収益		24,823,427	23,365,774	1,457,653	106.2
給水収益		23,865,408	22,441,566	1,423,842	106.3
受託工事収益		73,112	49,586	23,526	147.4
その他営業収益		884,907	874,622	10,285	101.2
営業外収益		1,685,958	1,798,770	△ 112,812	93.7
受取利息		16,859	13,685	3,174	123.2
不動産賃貸料		36,357	32,456	3,901	112.0
水道加入金		959,237	792,719	166,518	121.0
他会計補助金		571,241	673,218	△ 101,977	84.9
国庫補助金		61,481	144,308	△ 82,827	42.6
雑収益		40,783	142,384	△ 101,601	28.6
特別利益		11,626	5,595	6,031	207.8
固定資産売却益		7,978	1,467	6,511	543.8
過年度損益修正益		3,648	4,128	△ 480	88.4
水道事業費用		24,092,576	24,466,655	△ 374,079	98.5
営業費用		22,151,850	22,208,196	△ 56,346	99.7
人件費		3,229,750	3,648,645	△ 418,895	88.5
物品費		302,200	382,301	△ 80,101	79.0
経費		4,748,786	4,778,109	△ 29,323	99.4
受水費		6,469,379	6,102,978	366,401	106.0
減価償却費		7,154,969	7,089,201	65,768	100.9
資産減耗費		246,766	206,962	39,804	119.2
営業外費用		1,877,133	2,024,627	△ 147,494	92.7
支払利息		1,804,469	1,914,002	△ 109,533	94.3
繰延勘定償却		70,896	66,140	4,756	107.2
雑支出		1,768	44,485	△ 42,717	4.0
特別損失		63,593	233,832	△ 170,239	27.2
過年度損益修正損		62,909	83,551	△ 20,642	75.3
その他特別損失		684	150,281	△ 149,597	0.5
固定資産売却損		0	0	0	皆増
当年度純損益		2,428,435	703,484	1,724,951	345.2

(注1) 消費税及び地方消費税抜きの額である。

(注2) 平成24年度特別損失中の固定資産売却損については、決算額は132円である。

(4) 前年度との比較(資本的収支)

(単位：千円)

科目	区分	平成 24 年度	平成 23 年度	増減額(△減)	比率(%)
水道事業資本的収入		3,225,871	2,455,126	770,745	131.4
企業債		2,150,000	1,632,000	518,000	131.7
固定資産売却代金		647	33	614	1,960.6
出資金		455,035	443,877	11,158	102.5
国庫補助金		22,906	42,388	△ 19,482	54.0
開発負担金		443,035	179,434	263,601	246.9
負担金		134,494	136,302	△ 1,808	98.7
その他資本的収入		19,754	21,092	△ 1,338	93.7
水道事業資本的支出		11,143,056	10,859,604	283,452	102.6
建設改良費		5,763,396	5,181,068	582,328	111.2
配水管整備事業費		3,327,900	2,748,896	579,004	121.1
施設整備事業費		2,280,698	2,285,759	△ 5,061	99.8
受託等工事費		154,798	146,413	8,385	105.7
企業債償還金		5,376,022	5,444,621	△ 68,599	98.7
開発費		0	233,915	△ 233,915	皆減
その他資本的支出		3,638	0	3,638	皆増
差引		△7,917,185	△8,404,478	487,293	94.2

(注) 消費税及び地方消費税込みの額である。



5. 主な実施事業

- 基本計画において定められた6つの「施策の基本的方向性」に沿って、平成24年度に実施した主な事業をご紹介します。

※【 】内の金額は平成24年度の事業費です。

(1) 安全・安心で良質な水道水の提供

- 高度浄水処理施設の導入【約800万円】
かび臭対策として、中原浄水場に粉末活性炭注入設備を導入するため、設備の設計を行いました。
- 保安体制の充実【約3,600万円】
配水所などの無人の水道施設97カ所における機械警備を引き続き実施しました。また、有害物の投入防止のため、中原浄水場への導水路にカバーを設置しました。



粉末活性炭注入設備

(2) 安定・信頼の水道システムの確立

- 配水幹線の整備【約1億4,000万円】
災害時に弾力的な水の相互融通を行い、断水などの被害拡大を防止するため、若林配水幹線などの整備を行いました。
- 鉛製給水管の更新【約5億8,100万円】
漏水防止や適正な水質管理の観点から、2,241件の鉛製給水管更新工事を行いました。
- 浄水施設・配水施設の耐震化【約2億5,000万円】
茂庭浄水場内施設の耐震補強設計や、鉤取山配水所の耐震詳細診断などを行いました。
- 管路の耐震化【約19億3,500万円】
1.2kmの配水幹線や18.6kmの老朽管、災害時に医療の拠点となる仙台社会保険病院などへの管路について、耐震性に優れた水道管への更新を進めました。



耐震管への更新工事

(3)お客さまの視点に立った事業運営

■ 事業・水質などの情報の積極的な提供【約 3,300 万円】

お客さまの関心が高い水質や災害対策に関する情報などを、広報紙やホームページなどを通じてお知らせしました。

(4)環境に配慮した事業運営

■ 地球温暖化防止に向けた取り組みの推進【約 4,900 万円】

茂庭第一配水所や富田送水ポンプ場に高効率の変圧器やモーターなどの省エネルギー型機器を導入しました。



高効率変圧器

(5)経営基盤の強化

■ 事業運営の効率化

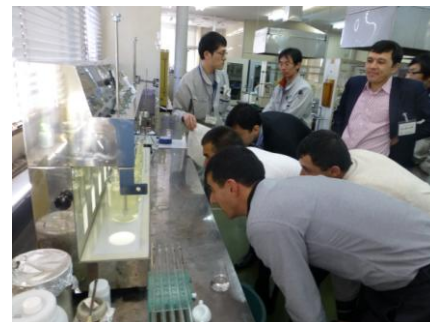
平成 23 年度から実施している給水装置関連業務の第三者委託※を引き続き実施し、約 900 万円の経費削減となりました。

※水道の管理に関する技術上の業務を委託し、経営効率化などを図るもの。

(6)新たな視点に立った事業運営

■ 国際貢献の推進

JICA（独立行政法人国際協力機構）などを通じた 14 カ国 31 名の研修員受け入れや、IWA（国際水協会）世界会議などにおける東日本大震災の経験を踏まえた情報発信を行いました。



海外技術研修員受け入れの様子

